

## 序

所長 倉根一郎

国立感染症研究所は、本年度も国立研究機関として研究業務、サーベイランス業務、レファレンス業務、生物製剤の品質管理業務を一層推進するとともに、国内外における感染症健康危機事案に対しても対応し、厚生労働行政に於ける役割を果たした。

平成 27 年における高度封じ込め施設の BSL4 指定以降、村山庁舎においては BSL4 施設における安全管理のみならず、庁舎全体のセキュリティ強化を推進するとともに地域の皆様への情報発信等に努めてきた。本年度も村山庁舎施設運営連絡協議会を 3 回開催し情報の公開を行うとともに、委員からの意見集約に努めた。また、村山庁舎一般公開を 7 月 29 日に開催し、地域の方々に所の研究・業務に関して理解を深めていただくことに努めた。戸山庁舎においては一般公開を 9 月 30 日に開催した。5 月 22 日には感染研シンポジウム“薬剤耐性菌の現状と対策”を行った。また、アウトリーチ活動の一環として、知の市場を前後期にわたり開催した。

海外の国立研究機関との連携・共同研究においては、中国 NIFDC 及び韓国 NIFDS との第 3 回ワクチン品質管理及び研究に関するシンポジウム（5 月 8-9 日、中国北京）、中国 CDC 及び韓国 CDC との第 11 回日中韓感染症フォーラム（11 月 7 日、韓国ソウル）、台湾 CDC との第 14 回日台感染症シンポジウム（9 月 5-6 日、感染研）が開催された。ま

た、ベトナム NIHE との共同研究ワークショップ（8 月 22-23 日、感染研）が開催された。

新たな国際協力体制の構築のため、5 月 8 日中国食品医薬品検定研究院（NIFDC）とワクチン及び生物製剤の品質管理研究分野の研究協力等に関する覚書を、さらに、10 月 11 日 タイ国立生物製剤品質管理研究所（IBP）とワクチン及び生物製剤の品質管理分野の研究協力等に関する覚書を締結した。海外諸国との技術協力として、48 カ国から 227 名の外国人研修生等を受け入れ、一方、専門家の派遣については、48 カ国 420 名の派遣を行った。

国立感染症研究所は WHO インフルエンザ協力センターとして世界のインフルエンザ対策において大きな役割を果たした。また、麻疹排除の維持およびポリオ根絶計画についても国内外においてその役割を果たした。WHO 世界麻疹風疹実験室ネットワーク並びに西太平洋地域のレファレンスラボラトリーとしての役割を果たした。ポリオ根絶計画に関しては、世界特殊専門ラボラトリーとして、また WHO 西太平洋地域の指定ラボラトリーとしての活動を行った。さらに、JICA との共催により、ポリオ実験室診断技術研修会、麻疹・風疹診断、及びエイズ研修を海外からの参加者に対し行った。これらの研修を通して国際的に大きな貢献を行った。

感染症疫学センターは国のサーベイランス事業において中央感染症情報センターとして位置づけられているが、感染症情報の収集・解析を行うとともに、感染症発生動向調査(NESID)、病原微生物検出情報(IASR)、感染症発生動向調査週報(IDWR)等により感染症情報の還元を行った。また、実地疫学専門家養成コース(FETP)を実施し、本年度は19期生を迎えた。さらに、ワクチン副反応報告について集計・解析を行い、結果を厚生労働省、医薬品医療機器総合機構とも共有し、我が国のワクチン行政に貢献した。

薬剤耐性菌に関する業務においても進展があった。院内感染対策サーベイランス(JANIS)に関しては本年度も参加医療機関の増加があった。また、WHOの薬剤耐性サーベイランス(GLASS)に提出するデータをJANISのデータベースから抽出・集計し、国際的な薬剤耐性対策にも貢献した。平成28年に国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議から発出された「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」に基づき、平成29年4月1日薬剤耐性研究センターがハンセン病研究センター庁舎に設置された。国内外の実態調査や、耐性メカニズム研究、抗生物質の品質管理、薬剤耐性対策に資する新技術開発、病院の感染症対策支援等の業務を行った。

生物製剤の品質管理においては、10月25日に厚生労働省監視指導・麻薬対策課、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による試験検査機関認定調査を受けた。11月17日付で、公的医薬品試験検査機関としての認

定(継続)を受けた。

国立感染症研究所研究評価委員会が平成30年2月14日に開催された。本年度は10研究部(ウイルス第一部、ウイルス第二部、ウイルス第三部、細菌第一部、細菌第二部、寄生動物部、感染病理部、免疫部、真菌部、細胞化学部)について、評価が実施された。評価委員からは種々の指摘があったものの、概ね高い評価を受けた。

なお、本年度は部長センター長等において以下の人事異動があった。4月1日、中崎宏司が総務部長に就任した。5月1日、阿戸学が感染制御部長に就任し、免疫部長を併任することとなった。7月31日、野崎智義寄生動物部長が退職した。10月1日、村松正道がウイルス第二部長に、久枝一が寄生動物部長に就任した。平成30年1月1日、菅井基行が薬剤耐性研究センター長に、高橋宜聖が免疫部長に就任した。平成30年2月1日、石井則久が全生園に転出し、ハンセン病研究センター長を併任することとなった。平成30年3月31日、倉根一郎所長が定年退職、中崎宏司総務部長が退職、加藤篤品質保証・管理部長が定年退職した。また、石井則久のハンセン病研究センター長併任が解除された。